

Title	マルクス主義の社会階級論 (一)
Sub Title	
Author	加田, 哲二
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.11 (1922. 11) ,p.1555(55)- 1563(63)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19221101-0055

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

宮内省御用達

東洋軒主 伊藤耕之進

- 東洋軒本店 高輪二、八七七一〇
- 新橋驛樓上 東洋軒支店 同二、八七七二
- 日本橋橋畔村井ビルデング地下室 東洋軒支店 銀座二、七二一八
- 有樂座内 東洋軒支店 電話 本局二、四五五四
同二、四八四
- 帝國劇場内 東洋軒出張店 丸ノ内一、二七三
- 生命保險會社協會地下室 東洋軒支店 丸ノ内一、二二九
- 日本橋濱町 錦 東洋軒支店 丸ノ内一、六二三
- 赤坂溜池 錦 水濱町 八三
- 京橋區傳馬町第一相互館七階 水芝 五三三〇
- 第一東洋軒 京橋一、九八二

雜 錄

マルクス主義の社會

階級論 (一)

加田 哲二

マルクス主義は屢々階級的學說であると云はれてゐる。フランツ・オッペンハイマはその「マルクス社會學の原理」 Franz Oppenheimer, Das Grundgesetz der marxischen Gesellschaftslehre の結論の中で次のやうに云つてゐる。「マルクスが當時の階級闘争の状態が甚だ必要としてゐた階級的學說をプロレタリアートに供給したことは、彼の歴史的効績であると共に、彼の偉大な

影響の原因でもあり、彼の體系の内部的弱點の原因でもある。マルクスがその天才を以てこれらのプロレタリアの階級學說を打ち立てたことによつてのみ、その巨大な影響は存する。このことによつてのみ、彼は全世界の階級意識のあるプロレタリアートの神的指導者となつた。このことによつてのみ、彼の資本論はプロレタリアの聖典となつたのである。(このことはマルクスの聖典の反對の意見があるにも拘らず、民衆に對する影響の原因ではなくして、障害となつたものと自分は信ずる。)(Ss. 146-147)マルキシズムの批評家ウラジミール・シンコウチもまた云ふ、「全體としてのマルキシズムは一の階級的教義即ちプロレタリアートの教義である」と。(Simkhovich. Marxism versus Socialism, p. 186) このことはマルクス批評家によつてのみ主張されるのではない。自ら純正なマルキシストの名

乗るものにおいても發見することが出来る。今その一例としてローザ・ルクセンブルヒ女史を擧げる。曰く「階級闘争の見地から見ると、その理論的問題は次の如くである。剰餘價値の起源、即ち奪掠の科學的説明、並に生産方法の社會化への傾向、即ち社會革命の客觀的基礎の科學的説明がこれである。これらの問題は資本論第一卷の中で答へられてゐる。それは「收奪者の收奪」を以て、剰餘價値の生産並に資本の加増的集積の必然的結果であると推理した。勞働運動の理論的必要は大體において、これによつて充たされたのである。」Rosa Luxemburg, Stillstand and Fortschritt in Marxismus, in Vorwärts, Marz. 14, 1903. Cited by Sinkhovich. p. 187)

私はマルクス主義は一の階級的教義であるから、それだけ價値の少ないものであると云ふ意味において、以上の引用を敢えてしたのではな

去つてゐる。「生産において人は自然に對して作用するのみならず、人間相互に作用する。彼等はある方法において協働し、また相互にその行爲を交換することによつてのみ生産する。生産するためには、彼等は相互に一定の關係と條件とに入る。さうしてこれらの社會的關係の範圍においてのみ、彼等は自然に作用し、生産は可能となる。生産者間のこれらの社會的關係並に彼等がその行爲を交換し、生産の集積的行動に参加する條件は、生産手段の性質に從つて自然的に異なる。……個人がその内において生産する社會的關係、即ち社會的生產關係は物質的の生産手段即ち生産力の變化と發展に從つて變化する。生産關係の全體が吾々の所謂社會關係即社會を構成する。特定の歴史的發展階級における社會、特定の性質を有する社會を形成する。」(Kautsky's Ausgabe. S. 25. F. Baldwin's English

い。マルクス主義が階級的教義と云はれる一半の理由はそれが嚴密に階級の本質と諸階級間の闘争の事實を認識したことにあるだらう。この點においてマルクス主義は自餘の社會學說に就いて數歩を抽んでゐると云ふことが出来ると思ふ。私の本論において目的とするところは、階級の本質、階級間の社會的現象に就て如何なる考へをマルクス主義者が懷いてゐたかを解説しやうとするにある。

二

マルクスが社會關係を經濟的と見たことは周知の事實である。彼の「經濟學批判」の序文はこのことに対する顯著な宣明である。今他の場合について彼の經濟的社會觀の一例を「賃銀勞働と資本」Lohnarbeit und Kapital. Separat-Abdruck aus der Nuen Rheinischen Zeitung von Jahre 1849 から擧げる。その中にマルクスは

Translation. pp. 18-19) マルクスはかくの如き經濟的社會觀から出發して社會階級の本質を決定しやうとする。社會は以上の如く人類の欲望充足のための活動の全體であるが、その社會的の全體の經營の内部において相互に同一な關係を結び、且つ經濟行爲の同一の範疇に屬する個人並に團體が存するが、これが一の階級を形成するものである。(Die Marxsche Geschichte, Gesellschafts- und Staattheorie, Grundzüge der Marxschen Soziologie von Heinrich Cunow. II. Band. Ss. 52-53)

マルクス主義の階級區別の標準は財産の大小、所得の高低、もしくは職業別によるのではない。その標準は經濟行爲の種類、並にそれによつて決定せられる社會成員間の地位である。マルクスの資本論第三卷の原稿は社會階級論の序論に終つてゐるが、そこではマルクスは現代の「市

民的」即ち資本制社會における社會階級を三つに分けてゐる。(一)土地所有者並に地代の享有者としての地主、(二)資本利潤獲得のために他人の労働力の利用者として、一方には資本家、他方においては、投資家並に金貸、(三)賃銀に對してその労働力の賣手としての労働者がこれである。(Das Kapital. III. 2. 52 Kapital. Die Klassen)これらの階級は社會的生産の過程において多くの下位階級に分たれる。例へば地主はその取得する地代によつて生活することも出来るし、また獨立の經濟を營む大小農となることも得る。これと同じやうに資本家は例へば金融業者にも、銀行家にも、大工業家にも、大商人にも、船舶所有者にも、小賣商にもなり得る。この外にまた中間的地位を占める中間階級が存する。マルクス並にエルゲルスはその政治的現象を論じた諸著において、以上の三大階級の外に

その下位に來る階級並に傍系の階級を論じてゐる。例へばエンゲルスは彼の「獨逸農民戦争」Der deutsche Bauernkrieg. の序文の中で農民階級を別つて二つとしてゐる。(3. Auflage S. 22 ff.)即ちエンゲルスがブルジョアジーとして數へてゐる大農並に獨立の經濟を行つてゐる小農がそれである。それと同様に彼等は工業的都市労働者の階級と田園的農業日傭労働者の階級とを分つてゐる。(Cunow. A. a. O. S. 53)

カール・マルクスは一八四八年の革命當時における獨逸の社會状態を描いて、New York Tribune へ寄書をしてゐるが、その中に當時の獨逸における階級状態を可成に詳細に描いてゐる。一八五一年九月にロンドンにおいて英文で執筆せられ、十月二十五日の同紙に載つた一論文「Germany at the Outbreak of the Revolu-

tion」がこれである。(この論文はその連續の諸論文と共にマルクスの娘エリアノル・マルクス・エツェリングによつて編輯せられ、Revolution and Counter-Revolution or Germany in 1848 として出版されてゐる。今引用は Social Science Series 中の一書として出版されたものに依る)「封建的所有制度の殆んど到るところで行はれてゐた」(p. 4)當時においては封建貴族は甚だ勢力があつた。これに反して「獨逸のブルジョアジーは佛蘭西または英國のブルジョアジー程富んでもゐないし、集中もされてゐなかつた」(p. 4)さうして國民の大多數は貴族にも、ブルジョアジーにも屬してゐないで、都市においては小商人階級と労働者であり、地方においては農夫であつた。(p. 7)さうして農民階級は尙ほ幾多の小階級から成立してゐるのである。マルクスはこのことに就いて次のやうに云ふてゐる。

「最後に小農と極小農との大階級がある。この階級は、農業労働者を加へて全國民の大多數を形成する。乍然、この階級はまた種々の小部分に細分せられる。第一に、富裕な農業者、獨逸において大農並に中農 Gross und Mittel-Bauern と呼ばれる、ものである。彼等は多少共廣大な農場の所有者で、各々數人の農業労働者の勤務を用ゐてゐる。この階級は租税賦課を免れてゐる大封建的地主と小農労働者との中間に位してゐる。彼等が都會の反封建的中産階級と同盟を結ぶことはその最も自然的な政治的經過として明かに理由がある。第二に、佛蘭西大革命の巨大な打撃によつて封建主義が征服せられたライン地方を支配してゐる小世襲地主 Small free holders がある。これと同等の獨立小世襲地主が以前その土地に存在した封建的諸義務を買収するのに成功

した諸州には存在する。乍然、この階級は單に名目上においてのみ世襲地主の階級である。彼等の財産は一般に擔保に入れられてゐて、その條件が非常に苛重なので、小農でなく、金を貸出した金貸業者が眞の地主である有様である。第三に封建的小作人である。彼等は容易に借地から離れることが出来ないし、彼等は永久の地代を支拂ふか、マナアの領主のために永久に一定量の労働に従事しなければならぬ。最後に農業労働者であるが、彼等の状態は、多くの大農場においては、英國の同階級と同一で、彼等は貧窮の間にその生を送り、その雇主の奴隷である。農業的人口の最後の三階級即ち小世襲地主、封建的小作人、農業労働者は、革命以前においては政治にその頭腦を費すことがなかつた。けれどもこの事件は彼等に對して、輝々たる前途あり

る新發展の過程を彼等の前に展開したのである。彼等のすべてに對して革命は利益を提供した。さうして運動が一度巧みに行はれば、各人がその運動に参加することが期待し得る。乍然、同時に次のことは明白であり、近代諸國の歴史によつて等しく確證されたことである。農業の人口は、廣大な地積に散在し、その各部分の間における一致を齎らすことの困難の結果として、嘗て成功した獨立運動を企圖することは出来なかつた。彼等は一層集中され、一層教養のある、さうして一層感動的の都會人士の創意的の衝動を必要とする。(pp. 1011.)

この引用文によつて表はれてゐるやうに、マルクスは當時の獨逸における社會階級を分つて封建貴族、ブルジョア、小商人、労働者、農夫に分つてゐるが、この農業従事者を更に分つ

て大農並に中農、小世襲地主、封建的小作人、農業労働者に分つたのである。

マルクスはまたその著 *Der achtzehnte Brunnreire des Louis Bonaparte* (4. Aufl. S. 40) の中で小市民を一の特殊の階級、ブルジョアからの「過渡的階級」としてゐる。然るに第五十頁においては、全市民を以て、再びブルジョアと解してゐる。さうして「佛蘭西における階級闘争」 *Klassenkämpfe in Frankreich 1848/50* においては、大小ブルジョアの分類を繰り返し、大ブルジョアを金融的ブルジョアと工業的ブルジョアとに分つてゐる。更に一八七一年の佛蘭西における内亂に就いての國際労働者協會總會における講演——*Der Bürgerkrieg in Frankreich*——においては、小ブルジョアを英語の用例に従つて、中産階級と稱し、小商人、手工業者を意味するものとした。(Cunow,

A. a. O. S. 54.)

マルクスが資本論第三卷第二冊の最終の章で現代資本社會の階級を地主、資本家、労働者に分つたとは既に述べた。彼はその三階級間に中間的、過渡的の階級の存することを説いて「何が階級を構成するか」の問題を起してゐるが、マルクスはこの自問に對して答へる處がなかつたのである。彼はこれに續く文章においてたゞ職業が階級と看做さるべきではないと云つたに過ぎない。醫師、辯護士、藝術家等の職業は、それ自體では一の特殊階級を形成するものではないと同じやうに、社會的分勞の結果成立した利益並に所有範疇も階級を形成するものではない。故に鑛山所有者、葡萄園の所有者、森林所有者も、石工も大工も纖維工業労働者も煙草製造労働者もそれ自體階級ではない。何故に然るか。マルクスはこれに對して何事も云はない。

たゞ前述の定義から推すと職業並に所有の區別は階級別の標準とはならない。また經濟的過程の内部において種々な相互關係による地主を有してゐる労働者の團體また特殊な所有を取つて見ても、それは階級を構成しない。煙草製造労働者も纖維工業労働者も同じ經濟的條件の下に、賃銀に對してその労働を賣り、同じ方法(同じ程度ではないにしても)で餘剩労働を施行する。企業者團(產業的、商業的並に金融的資本主義)土地所有者に對する彼等の生産的行動から起る階級的地位は同一である。彼等は、これによると同一の利益と對抗とを持つてゐる。

資本家に就いてもこれは同様である。彼が鑛山、炭坑、煉瓦、煙草製造にその資本を放下してゐても資本家たる地位に就いては同一である。然るに工業家、商品を賣買する商人、貨幣並に兩換によつて生活してゐる銀行家は同一の

うに資産の大小、所得の大小もまた用をなさない。人はよく云ふ。ある農民または手工業者の収入並に生活關係はよい地位の工業労働者よりも高くはない。故に彼等は労働者階級に屬すべきものである。また云ふ。小商人の營業の何ものも彼に屬してゐない。彼は負債を負つて働いてゐるに過ぎない。だから彼もまた労働者である。マルクス主義の階級學説はかくの如きことを主張しないのである。かくの如き主張は財産の大小と所得の高低を以て階級別の標準とした舊學説への復歸に別ならない。獨立の農民は高給の労働者以下の収入を有するが故に賃銀労働者ではない。彼は資本家に對して何等の賃銀關係を結んでゐない。餘剩労働も利潤をも生産してゐないのである。これと同様に落魄した貴族または官吏は彼の収入が通常の労働者の収入以下に下るからと云つて決して賃銀労働者で

資本家ではあるが、資本制的經營の内部においては、種々の經濟的機能並に相互關係に基づく異つた地位を持つてゐる。故に資本家階級中の下位の階級として工業家、商業家、金融家を區別することは正しい。工業家は他人の労働力を購入して、ある商品の生産のための經營にこれを利用して、さうして生産された餘剩價值の中から企業利潤としての彼の配分を取得する。金融家は利子を得てこれに對して資金を融通する。この兩者共資本家であつて、社會的生產過程において生産された餘剩價值からその所得を得る。乍然、この過程における彼等の經濟的機能は異なる種類のもので、資本制的經濟の内部において異なる活動方面を有してゐる。故に彼等の間には利害の不一致が時としてあり得るのである。

階級區別の標準として職業が用をなさないや

はないのである。要するにマルクス主義においては職業別財産の差異、所得の高低を以て階級別の標準とはしない。マルキシズムに従へば階級は經濟的發達の過程における産物で、當時の經濟組織から發生する共同利害の所産である。然らば、階級は如何にして發達したか。これが次の問題である。(Cunow, A. a. O. Ss. 1156)

(未完)

エンゲルスのロオドベル

トス批評 (二完)

小泉 信三

ロオドベルトスは謂ふ、

第二の條件に就て云ふと、券面に證明せられてゐる價值が實際に交易上に存在するやうにす